

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

2010年3月1日発行

- 第3号**
- 特色ある大学へ 新学長が全学によびかけ
 - 21世紀社会に貢献する人材を育成 学部長メッセージ
 - 学生支援の取り組み
 - 座談会・進化していく大学図書館
 - 学部・大学院トピックス 中国パンダ基地で働く卒業生

特色ある大学へ、全員が行動を

跡見新学長が全学によびかけ

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会が、平成20年12月に学士課程教育の質の保証を求める答申をまとめたのを受けて、杏林大学では今後3年間に取り組むべき具体策を検討する「中期計画検討委員会」を設け、1年近くわたって全学あげて議論を重ねてきました。

計画案策定作業は大詰め段階を迎えており、特色ある杏林大学をめざして教育目標・方針の明確化、教育の質保証の方策、教育研究環境の整備、学生支援システムの整備などについて具体策が次第に固まりつつあります。

今回の中期計画は「計画:Plan」作りには終わらせず、「実行:Do」・「評価:Check」・「改善:Act」のPDCAサイクルを導入し、改革を確実に進めていくことにしています。

22年度はこの中期計画を実行に移す年となりますが、計画を推進していく杏林大学の新しい執行部体制がこのほど決まりました。3期12年務められた長澤俊彦学長に替って4月1日から新学長に就任される跡見裕医学部長に大学運営の今後のかじ取りをどう行っていくのか、その決意を語っていただきました。



新学長 跡見 裕

あとみ ゆたか
東京大学医学部卒業、1992年杏林大学医学部教授(第1外科学)、2004年杏林大学医学部長、学校法人杏林学園理事就任、2010年4月より学長。専門は外科-消化器病学、肝・胆・膵、画像診断。



- ・「杏」(Prunus amariaca ばら科)は、別名カラモモ(唐モモ)とも呼ばれ、中国原産の落葉性の小形高木。英名はアプリコット (Apricot)。「杏」はいまではジャムやジュースなど専ら食用に使われています。昔は薬として利用されてきました。核の中の種子、杏仁(きょうにん)は鎮痛・解熱作用、せきどめに、花は便秘や食欲増進に、果肉は疲労回復に効果があるとされています。
- ・中国の廬山にいた董奉(とうほう)という名医が、貧しい患者からは治療費を受け取らず、その代わりに重病の者には5本、軽い病気の者には1本の「杏」の木を植えさせたところ、十万余株の広大な「杏」の林ができました(「神仙伝」)。この故事から後世良医のことを「杏林」と称するようになりました。
- ・右上写真は八王子キャンパス学生広場「コートヤード空」に建てられた東屋と御影石で形どられた杏林大学のシンボルマーク。右中央が三鷹キャンパスの松田記念館2階のクラブの部室につづく外階段にあしらわれた「杏林」の文字をデザインした飾り格子。右下が「杏」の花。杏林大学三鷹キャンパスと八王子キャンパスには「杏」の木が数多く植えられています。2月下旬頃から淡紅色の花を咲かせキャンパスを彩ります。

立せねばなりません。

そこで、平成21年4月、主として学生教育の将来計画を検討するために、「中期計画検討委員会」を立ち上げました。これは以前の「中長期改革委員会」を引き継いだものであり、教育の質を保証するシステムの構築に向けて、杏林大学の現状を把握し、実行すべき具体策を検討することを目的としています。委員長には神谷茂学長補佐、副委員長には黒田有子学生支援センター長が就任し、各学部の教職員とともに精力的な検討を行っているところです。

杏林大学の建学の精神は「真・善・美の探究」です。建学の精神に沿って「どのような学生教育をめざすか」、「どのようにそれを具体化していくのか」、今、私たちはきわめて重大な局面にあるといえましょう。

大学全体で「行動」していこう

学位授与方針 (Diploma Policy)、教育課程の編成・実施方針 (Curriculum Policy)、入学者受け入れの方針 (Admission Policy) を明確にして、教育を実践していかなければなりません。

その中で、私は「行動すること」を特に重視したいと考えます。様々な検討課題か

らでてきた諸点を、具体的な行動に移すことこそが実践です。そうでなければ絵に描いた餅となってしまいます。

「行動すること」は教員、職員はもちろんですが、杏林大学における教育問題の主体である学生に強く求められることでもあります。自ら汗を流し、自身の体で様々な体験をして下さい。学生時代を通じて経験した実体験は、必ず自身の血肉となるものです。

新しい時代に即した教育を提供

新しい時代に向けて、杏林大学はかじをきろうとしています。正しい航路を見つけるのはかならずしも容易ではありません。まさに全学の一致した努力が必要でしょう。全学の教職員の方々のご指導・ご協力、学生諸君の自覚と行動のもと、私も力を注ぐつもりです。何とぞよろしく願い申し上げます。

杏林大学役職者一覧 平成22年4月1日-平成24年3月31日

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 学 長 跡見裕* | 付属図書館長 大野秀樹* |
| 医学部長 後藤元* | 医学分館長 大野秀樹* |
| 保健学部長 大瀧純一 | 保健学分館長 小池秀海* |
| 総合政策学部長 松田和晃 | 人文・社会科学分館長 内藤高雄* |
| 外国語学部長 赤井孝雄 | 国際交流センター長 塚本慶一* |
| 医学研究科長 後藤元* | 入学センター長 岸邦和 |
| 保健学研究科長 大瀧純一 | 学生支援センター長 黒田有子 |
| 国際協力研究科長 松田和晃 | 学生支援副センター長 照屋浩司* |
| 医学部教務部長 渡邊卓 | 学生支援副センター長 原田奈々子 |
| 保健学部教務部長 丘島晴雄 | 学生支援副センター長 本田弘之* |
| 総合政策学部教務部長 小野田欣也 | 八王子保健センター長 四倉正之* |
| 外国語学部教務部長 塚本尋 | 三鷹保健センター長 林潤一 |
| 医学部学生部長 松村譲児* | 三鷹保健副センター長 角田透 |
| 保健学部学生部長 照屋浩司* | 学長補佐(認証評価担当) 神谷茂 |
| 総合政策学部学生部長 原田奈々子 | 医学研究科教務担当 渡邊卓 |
| 外国語学部学生部長 本田弘之* | 保健学研究科教務担当 川村治子* |
| キャリアサポートセンター長 豊島典雄* | 国際協力研究科教務担当(国際開発) 阿久澤利明 |
| キャリアサポートセンター副センター長 石井和夫 | 国際協力研究科教務担当(国際文化交流) 今泉喜一 |
| キャリアサポートセンター副センター長 柳田義男* | 国際協力研究科教務担当(国際医療協力) 高坂宏一 |
| 医学部付属病院長 甲能直幸* | 国際協力研究科教務担当(国際言語コミュニケーション) 塚本慶一 |
| 医学部付属看護専門学校長 古賀良彦* | |

*は新任

少子化の中で大学がかかえる課題

このたび、杏林大学の学長に就任することになり、その責任の重さを痛感しております。

杏林大学の歴史は、1966年に現在の三鷹キャンパスに、臨床検査技師を養成する杏林学園短期大学が設立されたことに始まります。

1970年には、良き臨床医育成を理念とする、杏林大学医学部が創設されました。その後1979年八王子キャンパスには、保健学部、1984年社会科学部(現在の総合政策学部)、1988年外国語学部が相次いで開設されました。さらにこの間、医学研究科、保健学研究科、国際協力研究科の大学院3研究科が併設され、総合大学としてますます充実してきたことは、まことに喜ばしいことです。

しかしながら、本学がさらに発展を遂げるためには克服すべき課題があります。課題の中には、わが国の大学がかかえる共通のものが少なくありません。特に少子化、18歳人口減少の中で、どのように学生の質を維持・向上させるのかは、きわめて重要で、かつ深刻な問題といえましょう。

求められる「教育の質の保証」

平成20年12月には、中央教育審議会(中教審)より、新たなる視点からの答申「学士課程教育の構築に向けて」が出されました。

この中でも、いわゆる大学全入時代を迎え、教育の質を保証するシステムの再構築が求められています。同答申はさらに、わが国の学士課程教育は、グローバルな知識基盤社会、学習社会において、未来の社会を支えよりよいものとする「21世紀型市民」を幅広く育成するという公共的な使命を果たし、社会からの信頼に応えていくべきであると指摘しています。

私たちはこの答申の内容を吟味し、加えて杏林大学における特色ある学生教育を確



新医学部長 後藤 元

専門は内科学、呼吸器病学、感染症学。医学部付属看護専門学校校長。2010年4月より医学部長。

実績が評価された学生の定員増

ご存じのように全国的にも医療を巡る状況が大変厳しくなっている中、本学部の定員は、平成21年度に90名から105名に増員となったのに引き続き、平成22年度からは、さらに111名へ増員となります。これは地域医療の充実を図るための施策の一つとして東京都および茨城県からの奨学生を受け入れることに伴うものです。東京都および茨城県の奨学生の受け入れ先として本学が選ばれたのは、これまで築いてきた実績が評価されたのであり、これを機に、地域医療を含めた教育の一層の充実を図りたいと考えています。

学部教育の一層の充実を図る

本学部の教育は、最近数年の間に大きな改革がなされています。従来臓器別に担当科単位で行われてきた臨床講義を系統毎にまとめ、複数診療科の有機的な協力、組み合わせによる新たなカリキュラムの編成、すなわち統合カリキュラムの導入はその中心をなすものです。

また、1年次および3年次に導入されましたチュートリアルと呼ばれる、小グループで一つの課題につき学生が自主的に学習を進めるプログラムもほぼ同時に開始され

ています。いずれも数年間の施行を経て、医学教育における有用性が確認されてきたところですが、同時にいくつかの問題点も明らかとなってきています。その改善を含め、さらに教育効果のあがるシステムとして整備を進めたいと思っています。

6年次に導入されたクリニカルクラークシップは、学生が実地の診療に主体的に参加するプログラムですが、その受け入れ施設は海外のものを含め充実してきており、今後のさらなる発展に向け努力したいと考えています。

社会人の受け入れを 大学院教育の柱に

また大学院教育についても充実がもたれられています。

診療業務が厳しさを増すなかで、研究面における充実を図ることは、本学に限らず多くの困難が伴いますが、こうした状況を踏まえ、医学研究科では平成21年度から社会人入試制度を導入しています。

これは社会人としての身分を保障しながら大学院進学への道を拓くものであり、今後、大学院教育の一つの柱となることを期待しています。

ここ数年の間に本学部および医学研究科では、医学のこれからを見据えたプログラムを積極的に導入しています。

今後、こうしたプログラムをさらに改善し、本学部の一層の充実を図ることに力を尽くしたいと思っています。皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。



保健学部長 大瀧 純一

専門は精神看護学、精神保健学。

開設30周年 進化を続ける保健学部

保健学部は昨年開設30周年を迎え、昨年11月の記念式典には約1000名の卒業生らが一堂に集い、学部の足跡を振り返るとともに一層の発展を誓い合いました。この間に送り出した卒業生は約4600名にのぼり医療現場などで社会の中核となって活躍しています。

学内で長い歴史を持つ保健学部は、伝統に甘んじることなくさまざまな改革を行ってきました。臨床工学科は今春、第1期の卒業生が社会に巣立っていきます。それに続いて、翌年には救急救命学科と健康福祉学科が、さらに3年後には6番目の学科として設置された理学療法学科の卒業生が社会に出ていきます。看護学科は昨春三鷹キャンパスに移転し、念願だった病院看護部との連携が強まり、実習面を中心に教育内容が確実に充実してきました。

「学生と教員との距離を縮める」

伝統ある保健学部のかじ取り役を再び務めるにあたって、新たに大きく推し進めたいことがあります。それは「学生と教員との距離を縮める」ことです。大学生になる

と小中高とは違って、学生と教員の距離が遠いものになりがちです。本学部の学生に対する評価として「素直で与えられた課題に対しては真摯に取り組む」と賞賛される一方で、「積極性に乏しいのではないか」という指摘があります。

そのため、教職員側から学生一人ひとりに話しかけ、コミュニケーションを取り、大学4年間で自分の立場や意見を言葉で表現できるように、社会で生き抜くための積極性の構築を目標にし、あと歩を押し進めたいと思っています。

資格取得で就職に強み

保健学部は「資格取得」が大きな特徴です。看護学科と理学療法学科は国家試験受験資格を得るために必要な科目が多く、卒業と同時に受験資格が得られます。臨床検査技術学科、救急救命学科、臨床工学科では多くの科目が開講されています。国家試験受験資格に必要な科目を自分の責任で履修し、単位を取得することが必要です。

こうした資格取得によって、本学部卒業生が就職に関しては景気に左右されない強みを持っていますが、勉学に大変忙しい4年間になります。途中で嫌になったり、大学へ来なくなったりすることも時に見受けられますが、教職員一体となって本人に連絡を取り、場合によってはご父母に連絡を取って面談をするなど積極的に行っています。忙しい学生生活を乗り切るためにはご父母の皆様のご支援が必要不可欠です。

4 学部長メッセージ

21世紀社会に貢献する人材を育成



総合政策学部長 松田和晃

専門は古代日本の仏教文化と宗教制度に関する史料の分析。

社会の変化と学生ニーズに応える 新しいカリキュラムをスタート

当学部は、昭和59年に社会科学部として発足して以来、四半世紀にわたって、社会科学諸分野の総合的かつ学際的な理解力と実社会の動勢に即応する能力を備えた人材の育成をめざして、今日に至っています。その間、平成10年度に Semester制を導入し、14年度には社会科学部から総合政策学部へと改称しました。さらに18年度には、それまで総合政策学科のみであったものを、企業経営学科を新設して2学科5コース制としました。

こうした改正に対する学内外の評価が定着してきましたので、それらの経験をふまえて、近年の社会的な変化と学生のニーズに対応するような教育体制への改正準備を重ね、22年度より新たなカリキュラムを発足することとなりました。

しっかりと社会人力をつける

今回スタートするカリキュラムの特色は、初年次教育の強化と学際的知識力を修得させるための演習の増設、そして教養系科目の就職試験対応化などを中心とし、さらに専門共通科目を大幅に増加させたり、

第3学期に基礎演習の履修を義務づけるなど、実質の変更を重視したものです。

学部・学科の名称変更のような外見のチェンジで華やかな宣伝効果を期待するのではなく、常に変化を学生たちの要望に柔軟に対応しつつも、複雑な社会全体の構造と自らの存在との関係を認識した社会人を育成するという、学部本来の社会的使命を果たすための、愚直とも言うような改正になります。

教育能力の向上に努める

こうした改革は、ただ教務上のことのみにとどまらず、退学者対策をはじめとする学生生活のための支援体制強化にも及びます。それらが奏功して所期の結果を得るためには、対する教員側のマンパワーの向上が不可欠です。そこで今春より、若手の専任教員を大幅に増員すべく計画をしておりますが、加えて教育能力向上のための努力も一層重ねて行く所存です。

今回の改正のための試行として、専門分野の枠組みを超えて全教員が複数名のグループに分かれて授業を行う「学際演習」を、1年前倒しで実施してみました。学生の評判が予想以上であっただけでなく、担当教員が相互に他教員の教育手法を学び合う場にもなるという、期待以上の効果が報告されています。

社会的要請を機敏に感じて即応する柔軟性と、トレンドのみに流されずに本来在るべき姿は堅持するという硬骨さを兼備した学部でありたいと考えております。



外国語学部長 赤井孝雄

専門は19世紀を中心とするイギリス文学・文化研究。

コミュニケーションが学部の基本

言うまでもないことですが、外国語学部の教育・研究の基本は、コミュニケーションにあります。それにしてもこのコミュニケーションという言葉、昔からある言葉なのですが、最近とみにあちこちで見たり聞いたりすることが多くなったのではないのでしょうか。国内においてはカタカナ外来語の好きな日本人で済ませることも可能なのですが、これは日本に限ったことではないようです。

「初めに言葉ありき」という聖書の言葉をもちだすまでもなく、言葉を用いたコミュニケーションは太古の昔から行っていました。いや、それ以前にも言葉以外によるコミュニケーションが行われていたでしょう。そして、その研究・教育も古代ギリシャやローマ時代から、例えばレトリック研究などの名前で行われてきました。この流れを受け継いで、大学の文学部や外国語学部が生まれたと言っても良いと思います。

学問としてのコミュニケーション

一方でコミュニケーションを、メディアやマスコミュニケーションの研究、さら

には人間行動学的な新しいアプローチによって研究し、学問としてとらえるようになったのは比較的最近で、約60年前のアメリカに始まり、日本ではそれから少し遅れて始まったとされています。この新しい学、つまり人間関係、グループ、組織、社会、マスメディア、さらには異文化との接点に至るまで様々な状況におけるコミュニケーションの研究・教育をコミュニケーション学と呼んでいる訳です。

観光交流文化学科を新設 4 学科体制へ

さて、今年度外国語学部は、3学科6コース制の完成年度を迎えたのを契機に、時代や社会の要請、さらに学生諸君のニーズに応えると同時に、さらなる学部の発展を目指し、「観光交流文化学科」を新たに設置することになりました。従来の「英語学科」、「中国語・日本語学科」、「応用コミュニケーション学科」に、「観光交流文化学科」が加わり、4学科体制となります。専門としての目標には違いがありますが、古来の「伝統的な学」に立脚し、それに「新しい学」を研究・教育すること、これが学部共通の使命だと考えます。

附記：私事で恐縮ですが、最近手にした本の中に、イタリア人哲学者ジャンパッティスタ・ヴィーコ(1668-1744)に関するものがありました。大学時代にヴィーコの『新しい学』の翻訳を悪戦苦闘しながら読んだことを思い出しながらこの解説書を読んだのですが、同時に、学の新しさ、古さとは何かを考えさせてくれるものでもあったため、この稿を起こした次第です。

gakushu shien
sogo shien
ryugakusei shien
dosokai shien
gakusei sodan
keizai shien
gakuseiseikatsu shien
kagaikatsudo shien

学生支援の 取り組み

- ・学生支援センターが設置されてから、ほぼ1年が経過しました。これからの学士課程教育においては、それぞれの教育目標を達成するために、大学がどのような学生支援を行っているかということが大切なポイントになります。
- ・杏林大学は、すべての教職員が力を合わせ心一つにして新入学生を迎え入れ、さまざまな支援を通して、一人ひとりの学生の人的成長を促し、自信をもって社会に送り出そうと努力しています。
- ・大学にはどのような部署があり、どんなことができるのかをぜひ知ってください。「困った」「わからない」「悩んでいる」という学生がしかるべき場所につながると、それが他の学生にも波及してよい連鎖を生みだし、大学が活気に満ちてくるのです。

学生相談室

学生の心の健康をサポート
学生相談室体制の充実

八王子キャンパス

1棟2階
9:00 - 17:00
予約方法: 直接電話もしくは保健センター、学生支援課まで

三鷹キャンパス

第2病棟D・3階
13:00 - 20:00
予約方法: 直接電話もしくは医学部学生係、三鷹保健センター、保健学部看護学科事務室まで

・カウンセラー2名を増員し、平日は毎日開室

学生相談室には、春休み中の今日も、数人の学生がカウンセリングにきました。たった50分のために電車に乗り、バスに乗ってやってきます。相談の内容はさまざまです。友人関係のこと、恋愛のこと、親子関係のこと、うまくゆかない就活のことなどなど…。心の病の症状や不適応行動を改善するために利用する学生もいます。

ここ2～3年は利用する学生が増えてきて、一人あたりの頻度を減らさなければならなくなっていました。予約をとろうとしたら2週間先、3週間先しか取れないという苦情も出てきました。

そこで、来る新学期より、新たに2人の専任カウンセラーを迎え、八王子・三鷹両キャンパスとも週5日開室することになりました。

新任カウンセラーはふたりとも30代の新進気鋭です。若い息吹に刺激されてイトウも、学生相談室を改革してゆこうと意気込んでいます。

これまで利用してきた方々はこれまでどおりに来室してください。初めての方は遠慮なくドアをノックしてください。

(学生相談室 伊藤幸江)

保健センター

健康関連イベントや感染症対策
栄養指導を実施

J棟B1F

9:00 - 17:00
(土曜日は13:00まで)

・各種イベントの実施



年に2回、健康に関するイベントを実施しています。喫煙やAIDS、アルコール等について、身体の変化や影響を理解し、学生自身が今後どのような行動をしたら良いかを考えてもらう機会となるように、八王子保健所やゼミ、その他の学生たちの協力を得て実施しています。

・新型インフルエンザの対策、ほか

昨年大流行した新型インフルエンザ。センターでは、集団感染の防止に重点をおいた予防対策を実施しました。手洗い、うがいの励行、マスク着用などを構内にポスターを掲示したり、ホームページで注意喚起を行いました。

また、キャンパスの安全衛生委員会と連携して各校舎入口に消毒液を設置しました。罹患者や接触者等についての情報は一元的に集約して把握し、その情報をもとに同一集団での集団発生の有無を確認し、対応しました。

近年大きな問題となってきている薬物対策については、新学期のガイダンスで映像等の資料を使い、薬物の危険性について啓発に取り組んでいます。

・健康相談から栄養指導まで

健康診断とともに、日々の健康相談等も保健センターの重要な業務です。

来室者の中には、身体的な不調や人間関係の不安をかかえる学生、理想のボディイメージに近づくための手段や、一人暮らしのため食事の不安を解消したいと相談に来る学生も多くいます。

身長計や体重計、血圧計等は常に使用できる状態で準備しているほか、自炊の学生に好評な料理レシピは前菜、主食、デザートに至るまで揃えており、誰でも自由に持って帰れるようにしています。

(八王子保健センター長 照屋浩司)

総合情報センター

学生生活に必要なIT関連の
情報とサービスを提供

E棟3F

9:00 - 17:15
(土曜日は13:00まで)

PC室により開室時間は異なります

・学習スタイルに合わせたPC利用環境を整備

学生は入学してすぐ履修登録を行います。教職員の説明や先輩の助言を聞きながら履修を決めたあと、登録はwebを使って行います。他にも授業資料の提供、連絡、課題提出など学生生活に必要な情報やサービスは「学生ポータル」(玄関、入り口)から全て行えます。

そうしたサービスを利用するためのIT講習会も当センターで行っています。学内に7カ所あるコンピュータ室では、すべてのPCがインターネットに接続しています。PC室は授業以外でも使いますが、自学・自習用に朝9時半から夜8時まで開いています。



E棟および食堂には無線LANがあるので、自分のPCを持ってくれば、インターネットにつながることができます。PCの貸出しもしているのでUSBメモリーに資料を入れて持参してください。

・杏林ドメインのメールを全学生に

学生は携帯電話のメールをよく使いますが、長文のレポートは送れませんし、就活に、携帯メールというわけにはいきません。そのために学生なら誰でも、@のあとに大学名が入ったメールアドレスを準備しました。このアドレスは在学中はもちろん、卒業後も変わらずに使うことが出来ます。このメールはインターネットにつながりさえすれば、どのPCでも、外国でも使えます。

(総合情報センター長 笈川博一)

国際交流センター

独自の高度日本語教育と
広がる海外での学び

I棟1F

9:00 - 17:15
(土曜日は13:00まで)

・国際交流と杏林大学

杏林大学は春学期と秋学期に「留学生を励ます会」を開いています。これは、留学生と日本人の交流のきっかけをつくるためのパーティです。年に2回もパーティをするのは、本学には半年ごとに新しい留学生が来るからです。年2回もつぎつぎと留学生を迎え入れている大学は、日本では少しめづらしいと思います。

・高度日本語研修課程について

外国語を学ぶ大学生の多くは、在学中に1学期間ぐらいは海外にいて、実際に勉強し、生活したいという希望をもっています。それと同じように海外の大学で日本語を勉強している学生も、在学中に日本で学ぶことを希望しています。

本学には、そのような学生を受け入れるための「高度日本語研修課程」があります。この課程は、かなり日本語のレベルの高い学生でなければ入学が許可されません。現在、この課程に留学している学生は、中国、香港、韓国、台湾などの出身者でいずれも日本語教育で有名な大学の学生です。

授業はかなり厳しいのですが、この課程を半年履修すると、日本の大学の授業はほとんど問題なく理解できるようになります。この課程を終えた

後、学部の一一般の授業を受けている学生がたくさんいます。

このような高度な日本語教育の課程を設置している大学は日本でもまだ少なく、本学の試みは、各地から注目を集めています。現在は東アジアの学生が中心ですが、今後は、留学生寮などを整備して、もっと広く世界中から本学に学びにくる人を増やしていきたいと考えています。

・海外研修と留学

杏林大学から海外へも毎年100名～150名の学生が研修や留学にでかけています。これは、本学と同じ規模の大学の中ではかなり多い数字です。現在、杏林大学から学生を派遣している海外の教育機関は次の表のとおり10カ国(地域)、21機関におよびます。

(国際交流センター長 本田弘之)

海外研修・留学先一覧

英語圏	実施期間	アジア圏	実施期間
アメリカ		中国	
シアトル・セントラル・コミュニティ・カレッジ	6/9か月	北京第二外国語学院	6/11か月
ウィスコンシン体験学習	15日間	北京語言大学	1か月
カナダ		河北大学	6/11か月
ビクトリア大学英語研修	3か月	香港	
バンクーバー保健研修	16日間	香港中文大学	9か月
イギリス		台湾	
オックスフォード英語研修	3週間	国立政治大学	6/11か月
マンチェスター大学・インターンシップ研修	3か月	観光実習	1週間
チチェスターカレッジ英語研修	3/5か月	韓国	
イーストアングリア大学留学	9か月	高麗大学校	11か月
オーストラリア		韓瑞大学校	11か月
クィーンズランド大学英語研修	3週間	観光実習	5日間
ウーロンゴン大学留学	6/9か月	シンガポール	
ニュージーランド		観光実習	5日間
クライストチャーチ英語・インターンシップ研修	3か月		

八王子キャンパスで 職員が職能研修

◎職員意識改革が大学を変える

昨年本学で実施した「学生生活実態調査」で、学生が不満に感じている項目の上位に職員の対応が挙げられました。これを契機に八王子キャンパスで従前の職能研修や階層別研修の枠を越えたSD(スタッフ・ディベロップメント)研修を行いました。

1回目の研修は8月24日(月)八王子キャンパスの教学系職員を中心に42名が参加して実施されました。個々の職員の資質向上を図り、教員との協働関係(自分たちの大学を改革し、良くして行くという目標を共有して対等に協力する)確立に寄与できる職員に成長することを目指し、学生がこの大学で学んで良かったと思えるようにするにはどうすればよいか、7グループに分かれディスカッションを行いました。

引き続き2回目の研修会を開催するに当たり、グループリーダーの認識統一とスキルアップの向上を図るため、12月25日(金)にはリーダー7名と管理職11名が参加してリーダー研修を行いました。ここでは、外部のSD研修会に参加した職員からの報告及び職員としてあるまじき事例を集めた「あっと驚く大学事務NG集」のDVD鑑賞の後、リーダーがパネルディスカッションを行い、2回目の全体SD実施に向けて議論を交わしました。

◎挨拶で変わる 学生とのコミュニケーション

第1回の研修では、職員の間から「学生との挨拶を励行しよう」という提案が出され、キャンパス内挨拶運動が進められています。照れくささもありませんが、最近ではこの効果によるものか、学生とコミュニケーションが取りやすくなったと報告されるなど、少しずつ成果に結びついていることを実感しています。

今後は、①学生との接し方、②杏林大学で求められる職員像の2点を課題として、第2回研修会に結びつけていきたいと思ひます。

(教務課長 内藤俊朗)

キャリアサポートセンター

キャリア形成の視点から
在学生の成長を支援

F棟1F

9:00 - 17:15
(土曜日は13:00まで)

・1・2年生には「社会人基礎力」を

初年次から就職マインドを持ってもらうよう、社会で求められる基礎能力を高める支援を行っています。

具体的には、総合政策学部のプレゼミ担当教員と協働で「基礎学力」「社会人基礎力」をつけるための講座を前・後期計6回行います。夏季にはジョブ・スタディ(企業見学)を通して就業意識の醸成に努めています。



総合政策学部での講座。自らの能力の特徴や適性を見極め、アクション・シンキング・チームワークの3つの能力要素を整理します。社会人に必要な基礎力を「基礎学力ミニテスト」や「コミュニケーションゲーム」や「社会人基礎力自己評価表」などを活用して身につけます。

・3・4年生には実践的な就職活動支援

就活の時期をむかえる3年生になると「筆記試験対策」「エントリーシート作成対策」「面接対策」を強化すると共に当センター主催の「企業就職合同説明会」や「個別相談」を行っています。

各学部のキャリア教育系関係の授業では担当教員と協働で産業界から講師を迎えて「業界・企業・職業」研究や「企業の求める人材」に関する講義を提供しています。

キャリア形成や就職活動における学生同士の支援(就職ピアサポート)では内定を得た4年生が3年生対象の就職ガイダンスで経験談やアドバイスをするなど教職員と一体となった支援も行っています。

(キャリアサポートセンター課次長 安藤英視)

●座談会

進化していく大学図書館 「知」の宝庫・図書館を大いに利用しよう

- ・大学図書館が情報革命が進行していくなかで大きな変化をとけて新しいすばらしいサービスを次々と提供しています。確かな学術情報やデータが迅速に簡単に入手できるようになりました。
- ・大学図書館がどのように変化したのか—情報検索システム、電子ジャーナル、図書館ネットワーク、データベース、図書館サービスメニューの現状そして最前線について、そして活字本の重要性、司書の役割、図書館空間利用の意義について、3図書館の司書の方々に語っていただきました。
- ・「図書館データベースをもっと活用しよう」では、大学図書館にどんなすごいデータベースが揃っているのか、その一端を紹介しましたのでぜひアクセスして利用してください。この紹介文は座談会出席者が作成しました。

●出席者 書間 大郎 人文・社会科学図書館課長補佐 岩隈 道洋 総合政策学部准教授 (大学新聞編集委員)
釘宮 聡 人文・社会科学図書館課次長 中村 修 保健学図書館課長補佐 諏訪部 直子 医学図書館課次長 (ABC 編)
進行 木下 修 総合政策学部客員教授 (大学新聞編集顧問)



「グーテンベルク 42 行聖書」(大英図書館所蔵)

15 世紀中葉、ドイツのヨハネス・グーテンベルクが活版印刷術を発明して印刷した聖書。活版印刷術の登場によって写本時代が終わり、書物の量産が可能になる。やがて書籍・雑誌・新聞が大量生産されるようになり、活字文化、活字メディア時代が到来して現在に至っている。

なく近い形で提供するサービスも出てきています。分野を問わず、様々なデジタル資料に研究者や学生がアクセスできるようになったのは、コンピュータ技術がもたらした大きなメリットの1つです。

本を読むことは学生生活の基本で、図書館は最適の環境です。更に最近では電子的な情報リソースが充実してきて、それに気づいた学生が、元々は紙の分厚い本に載っていたような情報を、司書さんの指導を受け

てネット上で手に入れています。教員にとっては図書館が貴重な本、専門雑誌、電子ジャーナルを充実させることが研究環境の充実、補助につながります。図書館の役割は、資料の収集・保管・貸出が基本ですが、近年はデータベースや電子ジャーナルの契約・管理も大事になっています。研究者が図書館に足を運ばず、研究室や自宅から専門情報にアクセスできるようになったのは大きな変化です。

書間: パソコンの進化、インターネットの出現、本・雑誌・論文の電子化、またその検索技術の進歩によって今後どのような知的基盤社会が出現するのか楽しみです。そのキーとなるのがまさに大学図書館、国立国会図書館だと思います。

●杏林大学図書館の電子ジャーナル導入までの歩み

木下: 1993 年にはノベルト・ボルツが『グーテンベルクの銀河系の終焉』を著しているように、デジタル革命の進行によって、書籍や新聞などの紙のメディアが終焉に向かうという論が 80 年代末から 90 年代にかけて結構ありました。しかし、活字メディアはなかなかタフであり、Google、Amazon、Barnes&Noble、Sony、Apple などが書籍をデジタル本(電子書籍)にどんどん転換するという新しい方向性も出てきており、彼の予言どおりにはいまはなかなか簡単にいいません。

では、杏林大学図書館がどう変化してきたのかについてうかがいます。

諏訪部: 20 年前に私が杏林大学に来たときには、図書館にはオンライン文献検索の端末以外にパソコンは 1 台もなく、図書館システムをコンピュータ化し、本格的に導入したのは 1992 年でした。その年以降、図書の入入れや OPAC(蔵書目録)、貸出・返却をパソコン上で管理しています。

1990 年代に入ると文献検索のためのデータベースが CD-ROM で提供され、利用者が直接検索できるようになりました。医学図書館では CD-ROM 文献データベースを最初は 1 台で提供していましたが、利用者が大変多いのでその後、台数を増やしていきました。

1990 年代末から 2000 年代にかけてはインターネット提供となり、学内 LAN 接続のパソコンからならばどこからでもデータベースが利用できるようになり、図書館が閉まっても、図書館に来なくても使え、時間的・物理的な制限がなくなりました。

最近では資料の本文が出版の段階から電子化されていてパソコン上で読めます。電子ジャーナルは杏林大学では 10 年ほど前から導入しています。導入当初はパソコン画面で論文を読むことに拒否反応を示される先生が結構おられました。パソコンの性能も上がり、ネットワーク環境もずいぶん良くなったので、電子ジャーナルが大変よく利用され、現在では、どうしてこの雑誌が電子ジャーナルで使える

のか、などと聞かれるようにまできりました。

書間: パソコンとインターネットの普及はもとも技術革新があり、それがシーズとなって図書館の資料や文献が電子化される方向に向かいました。これからは図書館、利用者側がニーズとなって新しいサービス、新技術はないのかと働きかける新たな段階に入っています。外国データベースでは検索画面は日本語表示にすることが利用者側からの提案で実現している例もあります。

釘宮: 人文・社会科学図書館は、CD-ROM などによる二次資料の提供から 15 年以上、インターネットによる電子ジャーナルの導入から約 10 年たちました。しかし予算的には冊子体資料への依存度が高く、また中国の古典「四庫全書」はいまだに 200 枚以上の CD-ROM で提供しています。資料はどちらかの媒体に収斂させるのではなく、資料の性格に則ってよりよい方を使うことがいいと思われます。

●高額だが利用者が多い電子ジャーナル

木下: どの大学図書館でも電子資料の比率が高まっていますが、杏林大学はどうでしょうか。

釘宮: 資料費のうち約 21% が電子資料です。全国平均が約 16% です。医学図書館にかぎらず各分館で購入する電子資料、特に電子ジャーナルには高額なものがあります。

木下: 医学部がある大学図書館は電子ジャーナルの予算の比率が高い。しかも電子ジャーナルの価格が紙の図書と比べて不当といえるほど高い。パッケージ売りが基本となっていてバラで買うと大変高つくつということも聞いています。

諏訪部: 医学系雑誌は紙メディアのものも高額です。近年はどの大学でも予算配分が紙よりも電子に移る傾向があります。医学図書館では今年度約 7000 万円を紙(プリント版)の雑誌に支払いましたが、来年からは約 1500 万円になる見込みです。逆に電子ジャーナルは今年度約 4900 万円でしたが来年度から約 8000 万円になる見込みです。これまでは紙と電子の両方を買わなければいけないとか、たくさんタイトルをまとめたパッケージでしか買えないという縛りがありましたが、最近では希望する雑誌だけ、あるいは電子ジャーナルだけ買える出版社もあります。来年度は医学図書館はその契約に変更して、約 100 誌を

電子ジャーナルだけにするためにこれまでより少し安くなります。

木下: 医学部のある総合大学のばあい、電子ジャーナルの図書予算比率がどんどん高まっていくので、紙ベースの図書を大事にする法学部、文学部、経済学部側が困っているという話を聞いたことがあります。

諏訪部: たしかに電子ジャーナルは高額ですが、利用率がたいへん高く、情報そのものがスピーディーに届きます。価格を利用率で計算するとリーズナブルといえると思います。

書間: 大学図書館の連合組織(PULC)が電子ジャーナル出版各社と値下げの交渉を従来からしてきており、当大学もそれに加盟しています。

諏訪部: 医科系の研究者は、今自分の研究が世界の水準から取り残されていないかを常に確認しながら研究を進めています。印刷物として公表される前に電子ジャーナルで最新の論文を読むことができるので、研究の進歩の早い分野では、これを利用しないと取り残されるおそれがあります。

●MyLibrary は便利だ

木下: まさに早く知るものは勝つという世界なのですね。

図書館の大きな変化の一つがサービスの向上です。杏林大学のばあいはどうでしょうか。

中村: 1992 年に図書館業務システムを導入したことで、貸出・返却・蔵書管理を一元的に管理し、より早く資料を提供できるようになりました。その後も 2000 年と 2007 年にシステムを更新し、2007 年 2 月に MyLibrary のサービスも開始しました。これはインターネット上の情報やデータベースを個人が使える自分専用の書齋で、自分が借りている本、予約した本などの情報がすぐに把握できるものです。貸出期限延長も MyLibrary 上で手続きができます。返却が遅れると自動的にメールが送られます(笑)。「相互貸借(ILL)」で他の大学図書館からコピーや本を取寄せることができますが、MyLibrary を使って web 上でもそのサービスの申込ができます。2008 年 1 月に導入したリンクリゾバというシステムは電子リソースを一元管理するもので、これによりデータベース検索結果から電子ジャーナルへのリンクや図書館所蔵情報へのリンクが自動的にでき、電子リソース・電子ジャーナルへのアクセス、資料の提供・入手がよりスムーズに行えます。



医学図書館 3 階の閲覧室中央にはパーティションで仕切られたキャレラデスク、それをささむように窓際にはスタンド付大机が 12 台設置された。昨年 4 月、保健学部看護学科の移転にあわせて施設を整備し、蔵書も充実させたこともあり、利用者が急増している。

3つの図書館ともにハード面の改善進む

木下: 図書館のハードとサービス面の変化・進化について語っていただきたい。

中村: 平成 18 年度に八王子キャンパスにおけるアメニティ委員会の中に図書館部会ができて、これによって図書館の設備が相当充実しました。保健学図書館は広かった視聴覚室をパーティションで 3 部屋に区切り、グループ学習室を設置したところ大いに学生に歓迎されて、今では順番待ちが発生するほど混雑することがあります。キャレラデスクはすべて照明付きのものにしました。他にもいろいろ改善を行い図書館の環境が相当改善されました。

釘宮: 人文・社会科学図書館もアメニティ改善計画の中で、初年度は情報検索スペースを拡充し、キャレラ

デスクを照明付のものに入れ替えました。翌年は、入退館システムの入れ替え、ブックポストの設置をしました。3 年目は、図書館の照明を 1・2 階とも増やし、書架の間をより明るく照らすようにしました。

書間: もう一つは、座ってレファレンスの相談ができるカウンターができました。

諏訪部: 三鷹キャンパスに 2009 年に保健学看護学科が移転して、医学図書館を利用する学生が 500 人増えたため大規模な改修を行いました。座席を 90 席増やし、書架も大幅に増やし、机や椅子も新しくしナラの無垢材の上質なものにしました。

2 階は持ち込みのパソコンをインターネットに接続できます。

●情報革命の進行の中で図書館が進化

木下: 情報革命、インターネット革命のインパクトは大きく、経済、政治、科学、技術、通信、出版、そして教育の現場などあらゆるものを大きく変化させています。図書館も劇的な変化をとげてむしろ「進化」という言葉に置き換えた方がいいくらいです。

知の宝庫、知のプラットフォーム、学術情報の基盤としての図書館が、情報化、電子化、サービス化の進行のなかでどのように変化しているのか、マクロ状況を語っていただきたい。

諏訪部: まず書籍、雑誌のデジタル化、検索システムの進歩、新しいデータベースの相次ぐ登場、図書館間のネットワーク化の進行という大きな変化があります。それと並行して図書館の機能が変化しています。

資料のデジタル化、インターネットの普及によって便利なおことが増えてきました。たとえば、国立情報学研究所(NII)は各図書館がどんな資料を所蔵しているかの総合目録を作っていますが、それは Webcat というサイトで現在公開され、インターネットを使ってだれでもいつでもどこからでもその情報を利用できます。NII が作った CiNii という雑誌文献のデータベースで国内の学術論文を検索でき、論文によってはパソコン画面上で全文を読むことができます。

国立国会図書館はたとえば「リサーチ・ナビ」という調べものに便利な情報源へのリンク集を作っていて、アクセスすればある程度の調べものができます。古い貴重書をデジタル化して公開するプロジェクトも進めています。

●図書館利用方法が変化した

岩隈: 毎年、横浜で「図書館総合展」が開催され、ここでは図書館の現在・未来に関する研究発表が行われたり、学者、ライブラリアン、書店や、データベース・電子ジャーナルのベンダーが集まって有益な情報を共有するために大規模な情報提供活動を行っています。私はローライブラリアンという立場でフォーラムに毎年参加して、発表・討論をしています。

情報化、デジタル化のインパクトは大きいものがあります。かつては紙メディアでなければ意味がないとされた文書を画像情報としてデータベースに取り込んで、1 次資料に限り

図書館データベースを活用しよう

WebCat 学外可能

全国の大学や研究所図書館に所蔵している資料を相互公開することを目的として作成された、国立情報学研究所編成の書誌データベースで 1235 機関(大学図書館等)が参加している。図書所蔵レコードは 1 億件以上、雑誌所蔵レコードは 448 万件。杏林大学図書館で入手できない資料でも、Webcat を使ってどの大学にその資料があるかを確認できる。このデータを持って図書館レファレンスコーナーに行けば、その大学から杏林大学に図書を取り寄せることもできる(ILL サービス)

OPAC 学外可能

杏林大学の 3 図書館(医学・保健学・人文社会科学)所蔵の資料(図書、視聴覚資料、雑誌など)を調べることができる所蔵目録で図書館利用の基本となるもの。

MyLibrary 学外可能

インターネット上の情報資源やデータベースを個人が使いやすいように整理して使うことができる自分専用のホームページ。杏林大学の学生、院生、教職員ならだれでも利用できる。杏林大学の図書館システムとリンクしており、資料貸出状況の確認、予約、貸出期間の延長手続き、文献複写申込などもできる。MyLibrary はインターネットが使える環境であればどこからでも利用できる。

NDL-OPAC 学外可能

納本制度により国内で出版された出版物をほとんど所蔵している日本最大である国立国会図書館の所蔵資料の検索用データベース。図書、雑誌、新聞、点字資料などあらゆる形態の所蔵資料を検索できる。個人でも登録すれば、検索結果からそのまま文献複写をオンラインで申し込める。この他 NDL の web サイトには、近時、著作権による利用制限の切れた資料については画像で提供するなど(デジタルアーカイブ)、一般の大学ではアクセスしづらかった資料のネット公開にも積極的な役割を果たしている。

日経 BP 記事検索サービス 学内のみ

日経 BP 社発行のビジネス系の雑誌約 50 誌をデータ化し、同時アクセス無制限のオンラインで検索・閲覧できる。収録期間は各誌創刊号から最新号(発行 1 週間後収録)まで。引用に便利なテキスト版閲覧と図表・写真を含む誌面そのままの PDF 版閲覧の両方ができ、様々な専門記事や Google と同じように簡単に検索できる。ほか、就職活動のための情報収集に役立つ。使わないと損!

MAGAZINEPLUS 学内のみ

論文・記事がどの雑誌の何巻何号何ページに載っているかが分かる。一般誌から専門誌、大学紀要、海外誌紙まで約 3 万誌、1,096 万件を収録した日本最大規模のデータベースで、論文やレポート作成時の文献調査に威力を発揮する。検索結果は学内所蔵(OPAC)、他館所蔵(WebcatPlus)、論文原文(JRNavi)、他のデータベースにリンクしている。これで調べて本文は図書館で探したり、相互貸借(ILL)で他館から論文コピーを取り寄せる。

WHOPLUS 学内のみ

延べ 59 万人の人名が検索可能な国内最大の人物情報データベース。職業・活動分野、肩書き、その他プロフィールが載っており、分野を問わず人名調査に威力を発揮する。

D1-Law.com 学内のみ

第一法規出版の「現行法規総覧」「判例体系」「法律判例文献情報」という 3 種の加除式資料をデータベース化したもの。法律分野のリサーチで中核となる法令と判例原文をほぼ網羅的に検索でき、また法律専門雑誌の書誌も効率的に検索できる、日本を代表する統合型法律データベースの一つ。

●データベース利用講習会、選書ツアー、開館時間拡大、図書館の地域開放など

木下: それ以外のサービス面の変化にはどんなものがありますか。

釘宮: たとえば学生向けのデータベース利用講習会を教員の協力を得て行っています。人文・社会科学図書館は分野が広く、学生や教員の求める情報を聞いて、司書が最適なデータベースを選んだ上で利用指導しています。

購入図書は図書委員会が決めています。今年1月に学生との協働で「選書ツアー」を行い、紀伊國屋書店に直接行って、学生の目線から図書館に置く本を選び出しました。最近では活字離れが進んでいると言われていますが、学生達が図書館や本を身近に感じてもらえるきっかけになればと思います。図書館は夜7時閉館でしたが、1996年9月から夜9時半閉館にしました。また、八王子キャンパスの2図書館を地域の人たちに利用していただくために年度登録制の図書館カードを500円で発行して開放しています。

諏訪部: 医学図書館では三鷹市立図書館と連携して市民に資料の貸出を行っています。ただし一般の方に直接貸出するのではなく、杏林大学医学図書館から市立図書館へという方法で行っています。

図書館は電子化によって来館せずに利用できるサービスが多くなっています。しかし学生にとっては学習の場としてのニーズも依然として高く、2008年4月からは日曜・祝日の午後も開館しています。同年11月からは開館時間を朝30分早めて8時半から利用できます。医学図書館は看護学生が実習で大量に資料を必要とするので、それまでは図書の貸出限度冊数は5点でしたが、全資料合わせて30点まで変更しました。

●杏林図書館は大学では珍しい開架式

木下: 杏林大学図書館の蔵書は3館全体で何冊ですか。

中村: 約54万冊です。保健学図書館が約10万冊所蔵で、年間約1700冊増えています。医学図書館は約26万冊所蔵で年間約3700冊の増加、人文・社会科学図書館は約18万冊所蔵で、年間約5000冊増えています。

八王子の2図書館は全資料開架されていて、OPACで検索できる図書は全て棚に並んでいます。全開架の大学はあまりなく、これは八王子の2図書館の大きな特色です。ただし、医学図書館はスペースの関係で古い資料は別置しています。開架式の問題点は、OPAC検索ではその本が存在しているのに、所定の棚で見つからないことがあることです。じつは本を読んだ人は必ず返却台に返し、図書館員がそれを所定の棚に正確に置くというルールになっているのですが、利用者が直接棚に戻すために間違いが起こることがあります。

●図書館ネットワークを利用しよう

木下: 図書館情報の利用の仕方が情報化やインターネットによって大きく変わりましたね。

中村: インターネット上で本が読めることはまさにグーテンベルク以来の大革命といえるかもしれません。図書館はたしかに「知識の宝庫」なのですが、「知識の棺桶」などと言われることもあります。しかし、図書館の所蔵目録をネットで公開するなどによって、まさに「知識の宝庫」であることが認識されるようになりました。インターネットで図書館間の連携が強くなり、情報交換、資料の相互利用が広くできるようになりました。

木下: 私はそのおかげで助かったことがあります。探している本が国立国会図書館と大阪府立大学にしかないことがWebcat Plus検索でわかり、それを府大から杏林大学図書館に取り寄せてもらったことがあります。

諏訪部: 情報技術が進歩して、一つの場所にキーワードを入れると複数のデータベースを検索できるようになりました。検索して探した文献をどう入手するのかをナビゲーションするシステムもあります。これまでは

一つの図書館、一つのデータベースという閉じられた世界での検索が、情報技術の進歩とネットワークによって外の世界にどんどん広がってきています。

晝間: 昔から図書館は世界的な協力関係を築いてきました。たとえば人文・社会科学図書館では、フランスの国立図書館にある文献の複写をある先生から頼まれて、e-mailで依頼したところ、文献をきちんと送ってくれました。決済はIFLA(International Federation of Library Associations)を使ってできました。海外とのオンラインネットワークがなくても、e-mailである程度のことが可能になっているのです。

岩隈: 電子資料は1次資料も2次資料も検索性が高いので、インターネットおよびそれに伴う技術の発達で研究も教育もしやすくなりました。

一昔前の研究者は目的とする資料を適切に探すことができる能力を身につけることが長期にわたる研鑽の多くを占めていました。現在では分野にもよりますが、紙の資料の山の中から資料を探し出す職人芸的な価値が相対的に低下して、インターネットやデータベースを使って短時間で的確に資料を探し当て、その中身をどう理解し、組み合わせ、新しい知見につなげていくかという学問の本来的な活動に研究者が専念できるようになってきたと思います。

諏訪部: その大学所属の研究者たちの知的生産物を電子形態で保存・公開する電子アーカイブシステム(=機関リポジトリ)をもつ大学が増えています。著作権の問題をクリアする必要がありますが、購読していなければ読めない、あるいは電子ジャーナルにしか載っていない論文も、その機関リポジトリから取り出せることもあります。

晝間: 他の大学に文献複写を依頼すると、それは機関リポジトリに載っているもので、それで入手してくださいと論されることがあります(笑)。

●情報探索技術を身につけましたか

木下: 図書館おすすめのサービスとしてはどういふものがありますか。

中村: レファレンスサービスを行っているので、資料の探し方、データベースの使い方などについてどしどし質問してください。世界的な図書館のネットワークができており、当図書館にない資料はコピーを取り寄せたり、本を取り寄せたりできます。

釘宮: 図書館は入学時のオリエンテーションで図書館ガイダンスを行っています。その後もゼミや授業単位でもう少し詳しい図書館利用講習会(図書館ツアー)を行っているので参加して情報探索術を身につけていただきたい。

木下: 図書館ツアーは学生全員がそれぞれOPACもデータベースも検索して情報探索技術を身につけるべきです。現在の八王子キャンパスの図書館のパソコンの台数では、10人、15人単位でオリエンテーションを行うばあい、ほとんどの学生は単に眺めているだけという状況になっていますね。

釘宮: その難問は新図書館の建設が解決してくれることを期待しています。

諏訪部: 医学図書館には24台のパソコンがあります。医学図書館司書は多くの授業を担当しています。授業や講習会を図書館でしますが、人数が多いばあいは120台あるパソコン教室ですることもあります。

なお杏林大学図書館のサービスの特徴の一つが新着雑誌の貸出です。雑誌貸出をしない大学図書館が多いのですが、杏林大学は貸出しています。雑誌の貸出期間は図書に比べて短く設定しています。

●専門分野のデータベースも使いこなそう

木下: 図書館には法律関係の優れたデータベースが結構あります。それらを駆使するための指導はどんなかたちで行っていますか。

岩隈: 新入生はまだ専門が固まってないので図書館ツアーにおまかせしています。3・4年生の法律コース専攻の学生には、法律専門のデータベースの使い方についての指導が有益

です。1980年代以降編集の資料は、DVD化されていたりデータベースに入っています。特に判例はテキストの分量が相当多く、検索も大変です。私はゼミの中で、あるいは情報法制の授業において、希望する学生に対して教えています。

晝間: 法律系のデータベースは利用頻度が高く、希望する学生には司書もレクチャーしています。D1-Law.comのデータベースはID・パスワードを入れて利用するので、学生は図書館にきて利用してください。

ところで杏林大学図書館は全て開架式になっており、学生はまず本棚のあいだを歩いて本を手にとりばらばらめくるなど、まず紙媒体の本・雑誌に親しんでいただきたい。電子資料に進むのはその次の段階だと思います。

岩隈: 基礎知識をマスターしていく段階では、ネット上の資料は適していませんね。基礎はどの分野もそれなりのボリュームがあり、画面をプリントして見るのは管理・費用・学習どの面からも効率が悪いのです。基礎作りの段階では読書が重要だというのは全く同感です。研究面でも人文・社会科学の分野は、結論に至る議論とか叙述を重視する分野でもあり、紙の資料と電子資料の両方のメリットをどう活かしていくかが今後の課題だと思います。

●新時代における図書館と司書の役割

木下: 図書館の基本的な役割、司書の役割とはなんのでしょうか。

釘宮: 図書館には、資料を収集し保存する蔵書管理と、その資料を利用者に提供するという2つの大事な機能があります。図書館が「知識の棺桶」にならないためにも、資料・蔵書を利用者に結びつけるという意味で、レファレンスサービスを中心とした利用者サービスが図書館と司書の基本的な役割だと思います。

諏訪部: ネット上には膨大な情報が流通しており、それをいかに取捨選択して有効に利用するか課題となっています。現在の図書館には情報リテラシー教育を行っていくことも求められており、それが占める割合が大きくなりつつあります。

医学部ではチュートリアル教育が行われています。学生が7、8人の小グループに分かれ、各グループを担当するチューターのガイドのもとに各自が課題を解いていく問題解決型の学習方法です。そのためには、自分たちで何を解決しなければいけないかを考えて、資料を基に解決していくのですが、学生が情報収集とその利用を効率的に行えるように、図書館は3年生の前期、4月から7月にかけて8コマの授業を受け持っています。そこでは文献検索、論文を入手して読むこと、レポートの書き方、文献管理の方法などを教えます。EBM(Evidence-based Medicine) といって科学的根拠に基づいた医療を行うことが必要だとされていますが、科学的根拠がどこにあるかという、臨床研究の結果つまり論文の形になっているので、それをいかに的確に探すが求められています。それができる学生を育てるために図書館司書が授業を行っています。

木下: 基本的で大事なことをやっておられるのですね。

諏訪部: そのために専門家として知識やスキルを学んでいくことが図書館職員には必要なのです。

中村: 学生のニーズ、トレンド、出版界、電子リソース、図書館界などの動向を見定めながら、大学教育と教員の研究分野に合わせて大学にふさわしい知的資源の方向性を決めることも司書の大事な仕事です。

図書館のサービスのなかで一番利用していただきたいのはじつは私たち司書なのです。司書は蔵書の構成を知り、データベースの検索方法の訓練を受けているので、資料探しなどで迷ったときはぜひカウンターで相談して



左上から時計回りで、杏林大学医学図書館入り口掲示板。同館所蔵本・資料『阿蘭陀医学傳來史繪圖』より「シーボルト瀕血手術圖」、「阿蘭陀人外科治療之圖」。『アンドレアス・ヴェザリウス人体構造論』とその背表紙(部分)。『解体新書』。

いただきたい。

●信頼性あるデータベースを利用しよう

晝間: 20、30年前と情報収集をめぐる環境があまりにも大きく変化しました。現在は政府のホームページに重要な統計・データが公開されていて誰でも自由に利用できます。これは20、30年前に苦労して調べるのにかかった時間と比べて、1/10あるいは1/100に短縮されたといっても過言ではなく、これは大変な進化だと思います。図書館にあるMergentという企業財務情報データベースは、必要とするデータをまとめてプレゼンテーション用のフォーマットにまでアレンジする機能をもっています。このように情報収集と選別の時間が大幅に短縮されました。

しかし残念なことにインターネット上の情報は玉石混交です。だからこそ図書館にある信頼性のあるデータベースをぜひ利用していただきたい。学生の皆さんは大学図書館を大いに利用して情報収集と選別の効率化の仕方＝情報リテラシーを身につけ、社会に巣立ってからはそれを基にして企画力・行動力のある人間になっていただきたいと思います。

●書物に囲まれた静かな知識空間でひとり勉強する

木下: 先生の体験を通じての図書館の意義のある利用法がありますか。

岩隈: 研究者としてはやはりレファレンスサービスに依るところ大です。各自の専門分野の情報収集スキルをもってしても、細かい分野や隣接分野の最新情報がリサーチの網から漏れることもあります。資料が本学にないこともあります。そういうときに司書さんの手を借りて、学外の資料にもリンケージできます。また、杏林大学のように学際的な分野を重視する大学だと、今まで自分が親しんでこなかった分野について、手軽に調べて自分の分野との関連の中で研究していくこともできます。そういうときには、総合大学の図書館というリソースのパワーを実感します。

ところで、学生が図書館を利用する用途は、資料を探す、勉強スペースとしても利用する、の2つです。大学は今ではどこも人が多くて騒々しい環境になっていますが、図書館こそは保守的なまでに静かであることを維持できる数少ない空間です。

静かな図書館でひとり本に囲まれて勉強する時間というのは大変貴重であり、またそれは他に代えがたい空間なのです。大学の中でも、図書館は特別にアカデミックな空気・雰囲気を提供している場所だということは強調しておきたいですね。

木下: 長時間、どうもありがとうございました。

●図書館データベースを活用しよう

ヨミダス文書館 ●学内のみ
読売新聞(テキスト:1986年～+切り抜きイメージ:2008年11月～)に加え、THE DAILY YOMIURI(1989年9月～)と「よみうり人物データベース」(人名データ)を収録。「全文検索」と「キーワード検索」を組み合わせれば極力検索意図に合致する検索結果が得られる。(例:五輪やオリンピック)

開蔵IIビジュアル ●学内のみ
朝日新聞(縮刷版イメージ:1945年から+記事画像:1985年～)を掲載。当日朝刊掲載記事も朝7時より検索可能。検索画面で、AERA・週刊朝日の記事も検索対象になる他、「知恵蔵検索」(時事用語)が利用可能。日本および海外で800以上の図書館で採用されています。過去の出来事を知りたいとき、その事件、出来事などのように時間を追って報道されたのかを調べるときに有効。紙面イメージが(ヨミダスの一部、開蔵は全て)収録されているので、そのニュースの写真や注目度などがわかる。紙面イメージは印刷してレポートの資料に利用できる。

医中誌 Web ●学外可能
1983年以降の文献700万件以上を収録する医学分野での代表的な文献情報データベース。電子ジャーナルへのリンクがついているものは画面上で全文を表示できる。MyLibraryにログインすれば学外からも利用可能。

PubMed ●学外可能
世界の主要医学文献が検索できるデータベース。米国国立医学図書館のMEDLINEデータを元にしたもので、インターネットで無料公開されている。1860年代からの文献を約1900万件収録。使用言語は英語。電子ジャーナルへのリンクがついているものは画面上で全文表示ができる(注、杏林大学で契約しているか無料提供の電子ジャーナルに限る)。

Web of Science ●学内のみ
世界の自然科学文献が検索できるデータベース。引用関係のある文献をたどれることが大きな特徴で、これによって通常の検索では探せない文献を探し当てることもある。使用言語は英語で1971年以降の文献が検索可能。

LEXIS/NEXIS ●学外可能
LEXIS/NEXISは34,000種以上の情報ソースを保有する業界最大級の海外法・ビジネスデータベース。米国法律情報ははじめ、世界90カ国以上のニュース情報や、財務、M&A情報といった企業情報など、信頼性の高いコンテンツをオンラインで提供。メジャーな媒体から世界の隅々にわたるローカルな新聞や雑誌の記事も検索でき、自分の興味のあるニュースを主に英語で知ることができる。

EBSCOhost (Business Source Elite と Hospitality & Tourism Complete) ●学内のみ
EBSCOhostは、数千タイトルの外国雑誌をインターネットで検索し、得られた論文の全文・抄録を印刷・保存・E-Mail送信できるオンラインデータベース。このうち学内で利用できるものが2つある。ひとつは経済・経営系データベースのBusiness Source Elite(BSE)、もうひとつは観光業・旅行業・飲食業などのサービス業全般をカバーするHospitality&Tourism Complete(HTC)。BSEの総収録データは約610万件、1985年から現在まで約1,070の全文と約1,790の抄録を収録。HTCは全文が約40万件、索引・抄録約84万件収録。日本語検索機能も付いており気軽に調べて学習に役立てて下さい。

RefWorks ●学外可能
収集した学術情報をWeb上で管理、共有、発信するためのツール。電子ジャーナルや文献データベースで集めた文献情報を入れておき、必要に応じて参照したり論文・レポートの参考文献リストを自動作成することができる。個人アカウントを登録し、ID・パスワードでログインすれば学外からも利用できる。

学部・大学院トピックス

医学部

初年次教育で1年生グループプロジェクトを実施

初年次教育の一環として行った「グループプロジェクト」について報告します。

解法も正解もあらかじめ決められている問題に対する対処法ばかり学んできた学生に、ゴールも解決法も自分たちで決め、さまざまな困難を乗り越えて期限内に成果を出すという経験をしてほしい、という趣旨でこの「グ



三鷹キャンパス大学院講堂で行われたグループプロジェクト発表会。各グループ工夫を凝らした企画・発表に会場も大いに沸きました。学生たちは物事を実行するまでの過程と他者と協力することの大切さを学ぶなど、貴重な経験を行うことができました。

ループプロジェクト」を企画し、109人の1年生が10グループに分れて取り組みました。

昨年11月14日の発表会では、授業やクラブ活動の合間をぬって、各グループが取り組んだ工夫あふれる作品が多く発表されました。発表会参加者の投票により、Dグループの企画「フリマをやって院内コンサートを開こう！」が最優秀賞に選ばれました。これは、患者さんのために院内コンサートを計画したが、予算が足りないので、フリーマーケットでの売り上げをプラスして、コンサートを実現したというものです。コンサート開催の許可をどう得るのかわからない、売り物がなかなか集まらない、フリーマーケットでは雨にたられるなど多くの困難がありました。それを克服して、患者さんの心を癒す素晴らしい音色の風鈴音楽のコンサート開催に漕ぎ着けたことが高く評価されました。

企画側としては、結果よりも、プロジェクト実行の過程で学生達がこれまでに経験しなかったようなことを様々学んで、今後の学習に生かすことができればこの企画の意義があったと考えています。

(医学教育学教授 赤木美智男)

看護専門学校

看護の道への一歩 106人が戴帽生に



「われはここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん。わが生涯を清く過し、わが任務を忠実に尽くさんことを…」ナイチンゲール誓詞を高らかに唱える学生たち。

第34回戴帽式を昨年11月21日(土)に松田記念館で行いました。

戴帽式は、基礎的な学習がほぼ終了して、これから病院で実習に入る看護学生に看護への認識を深め、看護に進む決意を新たにしてもらうため2年次の11月に毎年行われています。

今年度の戴帽式には106名の学生が参加し、長澤俊彦学長の式辞の後、一人ひとりへの戴帽の儀、戴帽生全員によるナイチンゲール誓詞の唱和と続き、この後学生たちはナイチンゲール像から点したキャンドルの灯を手に持って場内を一周しました。さらに後藤元校長の訓示、須永弘文学生会長の祝辞などが続いた後、在校生代表の第33回生鈴木千代さんが励ましの言葉を送りました。これに対し、戴帽生を代表して林由香理さんが、患者さんに信頼される看護師を目指して学んでいきたいと誓いの言葉を述べました。最後に今日を迎えた喜びと今後の更なる研鑽を誓う「キャッピングの歌」を全員で合唱しました。

戴帽生たちは、9月の基礎実習終了後からナイチンゲール誓詞や戴帽式の意味等について考えを深めこの日を迎えました。式を終えた戴帽生たちは学生生活を支えてくれた多くの方々から祝福され、これから本格的な看護師への道を歩む決意を新たにしていました。

(看護専門学校副校長 大木順子)

保健学部

臨床工学科 第1回卒業生を送り出すにあたって

保健学部新しい学科として臨床工学科を設置して早いもので4年が経過しようとしています。第1回の卒業生を送り出すことになり、学生諸君にはよく頑張ってくれましたとねぎらいの言葉をかけたいと思います。高校生のときから自分の将来を考え、医療の場を選び、その実現に向けた努力を続けてきたことを高く評価しています。

幸い、学科の運営に当たっては大きな問題もなく、当初の予想通りの教育を実現できたものと判断しておりますが、教育内容や水準などの詳細については国家試験の結果などをみて、もう一度、点検してみたいと思っています。

卒業後に大学院に進学して勉強を続ける学生も思いのほか多くうれしい限りですが、卒業生のほとんどは病院で働くこととなります。杏林大学保健学部臨床工学科の真の評価は卒業生の活躍で決まります。

思い出深い第1期生の皆さん方には、今後はそれぞれの職場で大いにその能力を発揮していただき、母校のますますの発展に寄与していただければ幸いです。

(臨床工学科教授 嶋津秀昭)

国内初移植コーディネーター育成のための専門科目を整備

昨年7月に改正された臓器移植法が今年7月に施行されることから、今後国内での脳死による臓器移植が増加することが予想されます。

保健学部では平成12年度から「移植コーディネーター論」等を開講していますが、22年4月からは専門科目を整備し、移植コーディネーターを志す学生の教育に力を入れていくことになりました。

臨床検査技術・健康福祉・看護・救急救命の4学科の学生を対象に臓器移植コーディネーター育成に必要な専門科目を増やし、現役の救急医、移植医、移植コーディネーター、厚労省幹部が非常勤講師として講義を担当します。

さらに通常の講義のほか、模擬実習をとり入れ、より実践的な学習を行うことで、移植コーディネーターの基礎を幅広く身につけた人材を輩出して移植医療に貢献していきたいと考えています。

平成22年度 大学院保健学研究科に看護学専攻博士後期課程を開設

保健学研究科は平成20年度に「看護学専攻博士前期課程」を設置し、高度な専門知識と看護実践能力を有する指導的看護職の育成に努めてきました。学年進行にあわせ平成22年4月から、看護学の教育・研究をさらに深め、学際的かつ国際的な視野に立った豊かな学識と研究能力を有する研究者・教育者を養成する「看護学専攻博士後期課程」を開設します。

新たに開設する後期課程の募集人員は2名。将来、看護学系大学院等において教育者・研究者を

徹底した少人数教育で地域や国際社会で貢献できる人材を育成

めざす強い意志のある方、博士後期課程で学んだ成果を生かして、地域社会および国際社会の健康増進に貢献する意欲のある方の入学を希望します。

○保健学研究科看護学専攻カリキュラムポリシー

- 1、学際的な能力を効率的に高めるため看護職以外の教員による基礎科目の設定
- 2、国際的な活躍の基礎となる英語教育の充実
- 3、博士論文作成のための特別指導と保健学研究科全体によるサポート体制の確立

(保健学研究科教授 小池秀海)

卒業生リレー



成都大熊猫繁育研究基地飼育員

阿部展子

(外国語学部 2006年卒)



基地のパンダは四川生まれで、四川弁にしか反応しません。一度覚えた命令は、いつまでもきちんと覚えています。時には、芸をして見せてくれることもあり、パンダはとても賢い動物です。(阿部)

昨年7月から、中国四川省成都大熊猫繁育研究基地(以下、パンダ基地)で、飼育員として働いています。成都パンダ基地は、中国を代表するジャイアントパンダの域外保全の場で、絶滅危惧動物のジャイアントパンダやレッサーパンダを保護・繁殖する施設として、全世界にその名が知られています。

私のパンダとの初めての出会いは、小学6年生の時です。「飼育員になりたい」と明確な夢を持ち始めたのは高校生の時です。飼育員として、絶滅の危機に瀕している、この貴重で愛らしい動物の存在を後世に繋げていきたいと思ったのです。パンダを勉強するには、やはり中国に行ってみなければと考え、杏林大学を選び、中国語の勉強から始めました。



パンダの世話をするのが私たち飼育員の仕事です。パンダの元気にいつも私たちのほうが元気が喜びをもらっています。(阿部)

大学3年生の時に河北大学へ留学し、念願だったパンダ基地を訪問しました。パンダに実際に触れてみて、中国でパンダの飼育員になりたいという思いが一層強くなりました。

杏林大学卒業後は、四川農業大学の本科に進み、本格的に動物学の勉強をしました。そしていま、大学の卒業実習をした成都パンダ基地で、飼育員として働いています。

私の仕事は、主に成年パンダ(5~20歳)の飼育で、1日2回の獣舎や運動場の掃除、給餌、投薬、採血の補助、動物のトレーニングと健康チェックを行っています。パンダ基地の日本語版ホームページや、基地内の看板の翻訳などの仕事も任されています。

実際に飼育をしてみると、パンダの意外な習性や行動に驚きの連続です。温厚な性格と思われがちですが、むしろ臽猛で、動作も大変機敏です。基地の張主任や諸先輩は、他の飼育員と分け隔てなく仕事を任せてくれ、大変充実した毎日を送っています。人のつながりの大切さや、人の温かさを、身をもって感じています。

私が中国語を始めたきっかけは「パンダ」でした。学生の皆さんも、夢を持ち続け、ぜひ外国語を生かせる道を見つけてください。

在校生リレー エンジョイ☆杏林Life

ぬいぐるみ病院部の活動

医学部4年 石谷舞



昨年実施した、三鷹キャンパス近隣の保育園での活動の様子。手洗いうがいなど、基本的な習慣を身につけてもらうため、わかりやすく説明しています。

ぬいぐるみ病院はドイツで始まった活動で、医学生が医師役、保育園・幼稚園児がぬいぐるみの保護者役となり、医療の疑似体験をするというものです。子供たちが、病気やその治療を理解し、医療に対する恐怖感を軽減することで、治療をスムーズに進めたいということなどがこの活動の背景にあります。

日本国内の医科系大学の医学生たちも、ぬいぐるみ病院の活動に注目し、その活動に、正しい手洗いの仕方や早寝早起きの大切さなどを伝える健康教育も劇やクイズの形式で取り入れるなど、工夫を凝らした取り組みをしています。

杏林大学でも私たち医学部生が中心となりぬいぐるみ病院部を立ち上げました。低学年では医学生としての実感があまりないことや、小児科医を希望する学生が多かったことも部を作るきっかけでした

が、一番の理由は、医師を目指して入学した時のモチベーションを維持し、一人ひとりの良さが発揮できる場所を作りたいと考えたからです。

勉強や課外活動、アルバイト等で忙しい学生生活ですが、それぞれが時間のできた時に集まって活動しています。私は、この活動を通して友人や後輩たちの新たな一面に触れることができました。子供たちに対する優しさ、責任感、創意工夫など、多くのことを互いに学び合う場がこの部にはあると思います。

現在では小児科の楊國昌教授のご指導のもと、保健学部看護学科の学生も含め、約40名のメンバーが所属する大きな部となりました。

今後は保育園だけではなく、病院内でのぬいぐるみ病院の実施に向けて勉強会を重ねていきたいと思っています。

総合政策学部

4月から新入生の 新カリキュラムがスタート

2010年度入学生より、総合政策学部は新カリキュラムを導入して、特に初年次生に対する更なる学習支援体制の強化を図ります。

今回はこの4月から施行される改革のポイントをお知らせします。

○共通科目の拡大

総合政策学部では1～2年生の間に、様々な種類の入門的な科目(共通科目)を履修しながら、3～4年次での専門コース・演習(ゼミナール)を選択できます。

新カリキュラムでは、これまでよりもこの共通科目を大幅に増加し、まだ将来の自分について悩んでいる1～2年生に対して、自分の専門を見つけるための選択肢を拡げました。

○新プレゼミナールの必修化

新入生に、スムーズに大学生活に馴染んでもらうために、総合政策学部はこれまでの初年次教育実践の積み重ねを踏まえて、1年生のプレゼミナール必修化を実施します。

新プレゼミナールは少人数のグループにチューター役の教員が1人ついて、大学生活に関する相談や、基本的な大学での学習技法について手ほどきを行います。さらに、プレゼミナールを一つのチームとして各種のイベントに参加したり、キャリアサポートセンターと連携して卒業後を見据えた早期からの就職・進路指導や、SPI・社会人基礎力のトレーニングを行います。

また、新入生は新プレゼミナールのクラスを拠点にして、年度初めの様々な事務連絡やガイダンスに参加します。

この時に、担当教員との顔合わせはもちろんですが、新入生同士の仲間作りや先輩学生、これから日々お世話になる事務職員との明るい交流の場を作ることを計画しています。

簿記検定にむけて特別補講

昨年11月15日に八王子キャンパスで、第123回日本商工会議所簿記検定3級試験を実施しました。

総合政策学部は、企業経営学科の会計担当教員による実践的答案作成のための試験直前の特別補講を6日間にわたって実施しています。

この特別補講は、簿記の学習に意欲を持

つ杏林の学生であれば、学部学科を問わず参加できます。

今回の検定試験では、3級11名の合格者を出すことができました。

なお124回日商簿記検定は2月28日、学内で実施され、特別補講は2月12日から26日まで6日間開講しました。

6人がアメリカ体験学習に参加

総合政策学部では、昨年8月29日から9月11日までアメリカ体験学習プログラムを実施しました。一昨年は希望者がいなかったため、2年ぶりのアメリカ研修となりました。

このプログラムは、総合政策学部の2・3年生および外国語学部の2年生の計6人が、アメリカ中西部ウィスコンシン州のオシュコシュ市に滞在し、同地の大学で英語・アメリカ文化研究プログラム(VOICE)を中心とした研修に参加するというものでした。

VOICEプログラムでは、午前中はウィスコンシン大学内で英語研修を行い、午後はショッピングや、近隣の農場・工場などの見学、現地ウィスコンシン大学の学生との交流会などを体験しました。

また、途中の連休中3日間のホームステイでは、一人ひとり個別に、現地のアメリカ人家庭に滞在し、それぞれのホストファ



ミリーとアメリカン・ホリデーを満喫しました。

参加した学生たちは、現地学生やホストファミリーなどの友人を多く作り、彼らとの再会を約しつつ、無事に帰国しました。(総合政策学部准教授 岩隈道洋)

外国語学部

第1回 熊谷奨学生、2人が海外留学へ

平成21年度 熊谷奨学生採用伝達式が12月16日 八王子キャンパスで行われ、英語学科2年の下山裕哉さんと応用コミュニケーション学科2年の林葉里耶さんに赤井孝雄外国語学部長から採用通知書が授与されました。

熊谷奨学生制度は、外国語学部の熊谷文枝客員教授が寄付された基金で設立・運営されているもので、学業成績などを基準に選考された学生に留学の費用として1人50万円の奨学金が授与されます。

伝達式では、第1回の奨学生に選ばれた



下山裕哉さんはオーストラリア・ウーロンゴン大学へ、林葉里耶さんはカナダ・ビクトリア大学への留学が決まっている。

下山さんと林さんに対して、熊谷客員教授から「語学の習得に留まらず、自国のことをよく理解したうえで異文化交流に努め、それを現地の言葉で紹介してください。そして留学先の国の人達の意見・考えをよく聞いて理解し、文化大使になる気持ちで有意義な留学をしてください」と励ましと期待の言葉が贈られました。

英語 英語インテンシブ・プログラムがスタート

少人数制クラスでの徹底的なオーラル訓練！
すべて英語による指導！

英語学科では、2010年4月から1、2年生を対象に、英語力増強のための新しいプログラムを導入します。一クラス5名程度の少人数制で運営し、大学のオリジナル教材PEP(実践英語習得プログラム)を使用します。

集中的なオーラル(発話)訓練期間はトータルで1年半。指導もすべて英語で行ないます(はじめの1年間は試験的に運用し、本格的な導入は2011年を目指します)。

学生諸君が1年半、本格的な英語のコミュニケーション能力にじっくりと磨きかけた後の目標は、2年生秋学期のセメスター海外留学です。そのため生活やビジネスに必要な実践的なトレーニングを1年生のうちから徹底的に積んでいきます。

このプログラムに選抜された学生が行なうのは、英会話の訓練だけではなく、多読と多聴を毎日の習慣とすること、文法の基

礎をしっかりと固めること、そして国際人としての教養や考え方を身につけることも、大事な目標の一部です。ですから1年次から、授業での宿題・課題が多く量の量に上るという心構えは持っておく方がよいでしょう。

杏林大学外国語学部では2006年からTOEICテストを導入していますが、英語インテンシブ・プログラムではその仕組みをさらに充実させていきます。ウィークポイントの分析に基づく継続的かつ徹底したトレーニングを通じて、留学前までに600点、大学2年生修了時には無理なく730点を取れる程度の英語力にまで、実力を高めていきます。

充実した教師陣と万全の教育サポート体制の下で、国際人として確実に通用する英語力にまで自分を高めてみませんか？

あなたが杏林大学外国語学部英語学科の英語インテンシブ・プログラムに参加してくれるのを、待っています。

(外国語学部准教授 高木真佐子)

キャンパス情報③ キャンパス・コンビニ

Kショップ

八王子キャンパスのほぼ中央、学生広場に隣接するKショップ。店内には常時2000種類もの食品や文房具が並び、八王子キャンパスの学生生活を支えている。

商品の主流は弁当や飲み物、菓子類で、冬は肉まんやカップ麺、夏はソフトクリームなども人気だ。学生はとにかくお腹がすくもの。遅い時間に授業がある学生や部活動をしている学生にとって、平日午後6時まで営業しているKショップはありがたい。

入学時から学生たちを見守ってきた店員のみなさんのもとへ授業や実習の話、悩みや相談をしに訪れる学生も多いという。先日は「就職先が決まった」と報告を受けました、と店長の植山さん。

元気に楽しく学生生活を送ってもらうためにKショップは今日も開店しています。



杏林グッズはここでしか買えない。このほか一般用・アルバイト用の履歴書、ちょっとしたスキンケア用品もあります。

ゼミが集中する日や昼時は大勢の学生で混みあう。「いつもより元気がなかったり、しばらく見かけなかった学生には、声をかけるようにしています」と植山店長は笑顔で話してくれました。

営業時間と定休日

8:30～18:00 *土曜日は15:00まで

定休日：休日・祭日

卒業式、オープンキャンパスなどキャンパスで催しがあるときも営業しています。

地域 杏林大学の地域交流活動

交流 「地域に根ざした大学」を目指して

本学では平成18年度から実施した中長期改革の方針で、それまでは個々の教職員が活動していた地域交流活動の情報や地域からの要望を、地域交流課と地域交流委員会が窓口・支援組織となつて一元的に収集・管理し、大学のもつ知的資源を地域社会のために貢献できるよう、より有効に活用していこうとさまざまな取り組みを推進してきました。

本学が進める地域交流活動は、八王子市はもとより羽村市・福生市など多摩地域の各市を対象として、教育・健康・地域活性化の3つの分野を基軸に地域の方々のお役に立つような活動を進めています。あわせて学生が地域のなかでさまざまな実践的な学習をして社会性が身につくようにできると考えています。

ここではそのなかから3つの事例を紹介します。

事例1 宮下町会のみなさんにパソコン指導



講習会では、午前中の1時間半を使って、マウスの使い方や文字の入力などパソコンの基本操作を覚えていただきました。講習会の後は参加された方々と昼食をとりながら、交流を深めました。

最近では、町会に加入する方の数が減少しており、八王子市内でも町会等への加入率は65%、宮下町のある加住地区では42%ほどだそうです。

進邦ゼミでは、このような講習会を何回か経たうえて、インターネットを活用して地域や町会のコミュニケーションを推進する電子町内会を立ち上げる構想も含めて、いろいろな場面で大学や学生が地域の活性化に貢献していきたいと考えています。

(総合政策学部 進邦ゼミナール)

総合政策学部の進邦ゼミナール・ソーシャルキャピタル班の学生4人は、昨年11月、八王子キャンパスのある宮下町の町会の方々と話を聞いてパソコン教室を開催しました。

これは町会の方々からインターネットやパソコンの操作を習得したいという要望が寄せられたため、学内の施設を使ってパソコン教室を開催することになったものです。

事例2 通訳ボランティアとして外国語学部生が活躍



外国語学部の学生10人が、昨年11月27日から八王子市芸術文化会館いちょうホールで開催された八王子市主催の第2回「ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール」で世界各国から来日した出場者の通訳を務めました。

このコンクールは世界的なチェリストである、故ガスパール・カサド氏を記念して3年に1度開催されるもので、今大会には22カ国から57人の出場者が参加しました。

八王子市では大会の運営を多くの市民ボランティアが支えており、学生たちは準備段階から市民ボランティアとの打ち合わせに出席するなどして大会運営に携わりました。

大会期間中、学生たちは市民の皆さんと協力して、各国から集まった出場者にコンクール会場や公式練習場の案内、宿泊するホテルや周辺施設の案内などを行いました。

事例3 八王子のまちづくりを学生が提案



外国語学部と総合政策学部の学生が昨年12月、八王子市学園都市センターで開催された「第4回市長ふれあいトーク、That's 八王子学～学生が提案するまちづくりとは～」に参加して八王子のまちづくりに関するアイデアあふれる提案を発表しました。

「市長ふれあいトーク」は学園都市でも知られる八王子市のまちづくりに学生の声を活かす試みとして、同市と大学コンソーシアム八王子事務局が中心となって行っている事業です。今回は本学を含め7つの大学等から10団体が八王子のまちづくりの提案を行いました。本学からは、外国語学部 岩崎ゼミナールが八王子市の観光スポットを巡るツアーを企画した、「これぞ一押し! 魅力満載 八王子バスツアー」を、同じく外国語学部 遠山ゼミナールが、市民と学生によるまちづくりプロジェクト「EU諸国に学ぶ『多様性の中の一体性』を目指す『共創型まちづくり』の提案」を、総合政策学部 北島研究会が若者に野菜を摂ってもらうための環境作りを提案した「大学生の食生活」をそれぞれ発表しました。この中で、岩崎ゼミナールの発表が優秀賞を受賞しました。

課外活動に特別支援

「指定強化クラブ」第1号に硬式野球部



杏林大学は体育系クラブを中心として優れた成績をおさめた団体を指定強化クラブとして認定し、更なる飛躍をめざすための活動に必要な経費を活動支援費として援助することになりました。

その第1号の団体として硬式野球部が選ばれ、昨年11月17日八王子キャンパスの学生支援センターで伝達式が行われました。

硬式野球部は昨春の東京新大学野球連盟2部リーグで優勝を果たし、1部リーグに昇格したことが評価されました。

強化クラブ指定に伴い、大学から硬式野球部の学外指導者への支援と、試合や遠征時の移動や備品を整備するための費用として、一定の範囲内で活動支援費が援助されます。

今年も上位独占!! 留学生日本語弁論大会

留学生たちが日頃の日本語学習の成果を発表する「八王子地域23大学等留学生日本語弁論大会」が昨年11月29日、八王子市学園都市センターで開催され、「留学生から見た八王子」というテーマで自らの経験談を披露しました。

大会は1次予選を通過した15人の留学生により行われ、本学から出場した具花実さんが優勝、楊拓さんが準優勝、何黎黎さんが第3位、蘭威巍さんが西八王子ロータリー賞をそれぞれ受賞するなど、昨年に続きすばらしい成績を収めました。



大会では、留学生ならではの視点から八王子の町についてさまざまな感想を述べた。左写真は優勝した具花実さん、右写真は受賞者の皆さん。左から外国語学部 玉村禎郎教授、楊拓さん、具花実さん、何黎黎さん、蘭威巍さん、任俊泳さん。

金田一教授の研究室から ③

三鷹の院生さん

あまり知られていないことですが、私は八王子だけでなく三鷹キャンパスでも授業をしています。国際協力研究科大学院の授業です。大学院は八王子だけでなく、昼間働いている学生のために、夜、三鷹でも教室を開けているのです。私が行くのは週一度だけです。以前は受講生がわりと多かったのですが、最近は一学期に2~3人。1人だけということもありました。

で、この授業を受けるのは、専門である国際文化交流専攻の学生さんだけではなく、国際医療協力専攻という人もいます。今年も1人、看護師さんが受講していて、なぜか面白がってくれるので、調子に乗って授業していました。看護師さんと患者さんのコミュニケーションはどのようなものなのか。そこで交わされる会話は、どのような意味を伝え合っているのか。看護師さんがいまや国際化しつつあって、その人々の日本語教育はどんなふうであるべきなのか。そんなことを話していました。

正月を越えて、学期の最終授業も終わって、あとはレポートという1月半ば、彼女から突然メールが来て、これから急にハイチへ行くので、あちらからレポートを送る、というのです。

彼女は病院船の可能性について研究しています。世界中のいろいろなところで

災害や戦争で被害を受けたところがあって、そういうところへ病院船を派遣する。手術室も完備していて、入院だってできる。とても素晴らしい国際協力ができるので、今すぐにも作れば良いと思ったのですが、その船のためには警備が要るわけ、それは自衛隊が受け持つことになる。つまり自衛隊の海外派兵と同じことになってしまい、それでそんなにも素晴らしいアイデアが、なかなか進まないんだそうです。全く、政治は難しい。

今回はハイチ大地震の緊急援助隊で、誰よりも先駆けて、トップバッターとして派遣されることになったわけです。こういうのは、とてもかっこよくて、あこがれてしまいますが、だからといって、僕はいつも何もしないで終わるわけで、せいぜい寄付金や義捐金を出す程度なのですが、やはり実際にそういう所へ行く勇気や義侠心、行動力というのは素晴らしい。僕の学生でそんなことをしたのは、知っている限り初めてのことで、わがことのように誇らしく思ったりしたのでした。

さまざまな形で、多くの人たちを救うことになるのでしよう。無事に帰ることを祈っています。

(編集部注: 彼女はその後、任務を終えて無事帰国しました。)



クラブ・サークル紹介

八王子・三鷹両キャンパスではあわせて87のクラブとサークルが活動しています。今回は21年度医歯薬リーグ1部優勝を果たした「医学部ラグビー部」と大会の応援や学内イベントで多くの人に元気を与えている「チアリーディング部」の活動を報告していただきました。

医学部ラグビー部

1部リーグ初優勝 創部40周年の年に



21年度、医学部ラグビー部(KMRFC)は、関東医歯薬リーグ1部リーグで初優勝しました。

医学部ラグビー部は、プレーヤー23人、マネージャー8人の計31人で活動しています。関東医歯薬リーグは、関東の医学部、歯学部、薬学部、計30大学のチームで構成され1部から4部A,Bの5リーグに分けられ秋季に行われるリーグ戦です。毎年5試合のリーグ戦を行い、上位チームと下位チームによる入れ替え戦を行います。

KMRFCは20年度に2部優勝し、その後の入れ替え戦を制して21年度のシーズンは創部以来初挑戦となる1部リーグでの挑戦権を得ました。強豪校との戦いは苦しい場面もありましたが、部員全員が一丸となって戦い、今回うれしい初優勝を収めることができました。

22年度は初めて追われる立場になりますが、今の環境への感謝の気持ちを忘れることなく努力を続けていきたいと思えます。(ラグビー部監督/医学部整形外科医局長 長谷川雅一)

チアリーディング部 VIVACIOUS

ビベイシャス: 元気で明るくをモットーに活動!



昨年、創部20周年を迎えたチアリーディング部VIVACIOUS。この間160人のチアリーダーが所属し、学内外のイベントや大会で明るく元気なエールを届けてきました。

杏会総会での演技や大会出場、杏園祭や他のクラブの応援など、一年を通して活動しています。昨年4月からは看護学科移転に伴い、三鷹キャンパスでもチアリーディングができるようになり、八王子と三鷹の2つのキャンパスでの活動を通し、さらに輪が広がってきています。

チアリーディングの魅力は、観客とチアリーダーが、このスポーツを通して皆で一体になれること。チアリーダーたちは信頼関係の強いメンバー同士の絆が生み出す、心からのチアリーディングをこれからも皆様にご伝えています。これからもっと多くのチアリーダーが増えることを願い、またVIVACIOUSのチアリーダーの笑顔と元気のパワーで、杏林大学がますます活性化していくことができるようこれからも頑張っていきます。

健康ひとくちメモ ③ 禁煙のススメ



<「すみません、タバコを下さい。全部さらして目がまわりそうですタイ」。彼は肺細胞の一つ一つで味わうかのように深く吸い込んでから、吐出した煙りの行方をぼんやり見つめていたが、やがて我にかえったように警部補の顔に視線をうつした。>

これは、日本の推理小説史上でとりわけ重要な位置を占める鮎川哲也の『黒いトラック』の一節です。喫煙は、ニコチン依存症という病気であることをよく表しています。すなわち、喫煙するとニコチンが数秒で肺から脳に達し、快楽ホルモンであるドーパミンが放出されて快感が得られるのです。血中ドーパミンの半減期は30分くらいであり、通常は1時間近く経つとニコチン渴望によって次の1本が吸いたくなります。まるで、覚せい剤などの薬物中毒とそっくりではありませんか。

喫煙に健康障害がなければタバコはユニークな嗜好品といえるかもしれませんが、ご存知のとおりそうではありません。煙りの中には、精神依存性のニコチンに加

え、酸素の運搬を妨害する一酸化炭素(CO)と発がん物質を含むさまざまな化学物質に富んだタールという3大有害物質が含まれているからです。ニコチン、COは動脈硬化の原因にもなります。また、タールは呼吸器系のがんのみならず、すべてのがんの約1/3にも関与しています。最近、タバコ病ともいわれる慢性閉塞性肺疾患の死亡率の増加も注目されています。そのため、40歳で男女ともに喫煙者は非喫煙者よりも平均余命が4年近く短いことがわかっています。

このニコチン依存症の治療は禁煙以外にありません。その最大のハードルは、禁煙後数日間続く離脱症状です。どうしてもそのハードルを越えられない人には、ニコチンパッチ、ニコチンガム、葉(チャンピックス)などのすぐれたグッズがあります。忙しい人には、インターネットや携帯電話による禁煙プログラムもあります。

付属病院では禁煙治療に保険が使用できます(個人によって異なるのでご相談下さい)。このようにして、たとえ何度失敗しようとも、再チャレンジすることが重要です。

(大野秀樹:医学部教授 衛生学公衆衛生学)

ラッピングバス運行中



杏林大学ラッピングバスが昨年10月から八王子市、日野市、福生市、あきる野市の4市にまたがる路線で運行しています。

デザインは杏林カラーの緑を基調とし、清新なイメージを打ち出しています。車両の両サイド後部には大学行事などの告知シールを貼ることができ、学園祭や入試日程、オープンキャンパスなど年3~4回、シールを貼り替えながら大学行事をお知らせすることになっています。運行期間は今年の10月までとなっています。

数字で見る杏林大学 ③

1万1858人

大学での勉学に学生が求めるものとして、文系の幅広い教養や社会性とともに、専門性をきわめることがあります。1万1858人、この数字は杏林学園創設時から昨年末までの、確かな専門性の証としての国家試験合格者数の総数です。最初1968年に、現在の臨床検査技師(当時は衛生検査技師:厚生省統一試験による都道府県知事免許)国家試験に杏林学園短期大学(保健学部の前身)から38名の合格者が出ました。以来、この42年間で3122名の臨床検査技師の資格者が育ちました。難関の医師国家試験では、1970年からの34年間で3229名が合格し、医師として巣立って行きました。この間の合格率は99.0%を誇っています。医学部付属看護専門学校は33年間で2883名が看護師に合格し、その合格率は97.5%です。保健学部看護学科は12年間で813名の看護師の他、保健師852名、助産師68名が合格しています。

さらに、最近の高齢化に伴う国家資格として、難関の社会福祉士に17名が合格を果たしています。この合格率48.6%は同時期の全国平均28.5%を大きく上回っています。また、救急救命士には6年間で119名が合格して人命救助の最前線で活躍している先輩たちがいます。職場においての労働安全衛生を担う、第一種衛生管理者養成課程修了者は6年間で393名おり、申請すれば無試験で免許を取得することができます。近年はグローバル化により食の安全が問題となっていますが、任用資格としての食品衛生管理者及び食品衛生監視員コースを修了した先輩も362名を数えます。この資格を生かし検疫官として活躍している先輩もいます。杏林大学の卒業生は、世界でもトップクラスの日本の医療や健康に寄与する人材として社会を支えています。

2010年度	
4月4日	入学式
5月29日	スポーツ・フェスティバル
6月上旬	杏会総会
7月下旬~	オープン・キャンパス
9月16日	秋卒業式
9月18日	秋入学式
10月9・10日	杏園祭(八王子キャンパス) ・外国語学部 ・総合政策学部 ・保健学部
10月30日	杏祭(三鷹キャンパス) ・医学部 ・保健学部看護学科 ・看護専門学校
11月11日	創立記念日(休校)

編集を終えて

・長澤学長、堀事務局長が今期で退任されます。新聞の名付け親でもある学長は、創刊号の立ち上げから週末や夏休みの編集会議にも毎回出席されて、積極的にご発言やご提案をされました。そして陰になり日向になっての名調整役を果たされた堀局長。お二人に一同心より御礼申し上げます。

3号では、木下編集顧問と図書館司書の方々、そして岩隈編集委員とのコラボレーションで読み応えのある座談会が実現しました。大学図書館というリソースの重厚さを読者の方々に実感していただければと思います。

今号にも多くの記事をお寄せいただきまして、ありがとうございました。(有)

杏林大学新聞編集委員会 編集長 黒田有子
事務局 広報・企画調査室
TEL 0422(44)0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL http://www.kyorin-u.ac.jp